

平成30年7月豪雨を体験して

令和元年度自主防災リーダー育成研修

日本防災士会 岡山県支部
太田 裕之（おおた ひろゆき）



避難所運営（初期）

- 避難者の把握
 - ⇒ 高齢者、持病のある方、乳幼児、妊婦、ペットと一緒に避難されてきた方
- 運営スタッフ間の共有
 - ⇒ まちづくり・市・学校の全体ミーティング
ボランティア団体等との役割分担
- 食料・飲料水の提供
 - ⇒ 備蓄品は水と乾パンのみ

避難所運営（中期）

- 避難者の健康維持
 - ⇒ 熱中症、感染症、野菜摂取不足
- 支援の平等性
 - ⇒ 共同生活、食事、支援物資、情報
仕組みづくりと自治会での情報共有が必要
- 運営スタッフ不足解消
 - ⇒ 避難所自治会の発足
清掃、ゴミ捨等の自主的参加を促す
- 避難所内での2次災害防止
 - ⇒ 危険個所の安全対策（仮設手すり、危険個所表示）

避難所運営（後期）

- 感染症対策（ノロウイルス・インフルエンザ）
⇒ スーパー次亜水による徹底消毒
- 退所カウンセリング
⇒ 仮設住宅・みなし住宅・在宅避難
それぞれの問題解決相談

避難所

- 平等、衛生的、安全な場所であり 2次災害の場
所にしてはいけない
- 最低限のプライバシーがあれば良い
- 新しい生活のスタートを切る為の一時的な場所

避難所の現状

- 不平等、不衛生的、不安全な場所でした。
- プライバシーに固執してお互い様子が薄れた。
- 被災しているのだから支援してもらうのは当たり前だ。

事前に備える！

- **地域での事前の連携が大切です**

⇒ どんな時にでも安全に避難できること

事前に準備し想定することが重要です。

- 避難所の確認（どのように利用するのか？）
- 避難所への安全な経路の確認（地震の時は？洪水の時は？）
- 自治体、学校、近隣町内会との事前連携打合せ（誰がリーダーなのか？役割分担は？どの様に支援を受けるのか？）
- 私は大丈夫と言う過信は禁物（事前の避難は損？）

**共助と公助を機能するために
支援者と支援される側とが同じ
認識を持つために
事前の仕組みづくりが必要です**